

# 至仏山・越後駒ヶ岳縦走報告

2010 年 5 月 1 日(土)ー5 日(水)

M4 只左一也

0 日目：上野駅→(JR鈍行)→ 水上駅(駅で仮眠)

1 日目：水上駅→(バス)→湯ノ小屋 →  
ホタル池付近(幕営：C1)

2 日目：C1→笠ヶ岳→至仏山→岳ヶ倉山→スス  
ヶ峰→白沢山手前のコル(幕営：C2)

3 日目：C2→平ヶ岳→剣ヶ倉山→滝ヶ倉山  
→にせ藤原山→藤原山→大水上山→丹後山→避難  
小屋(小屋泊)

4 日目：避難小屋→大水上山→兎岳→  
→中ノ岳→越後駒ヶ岳→駒ノ小屋(小屋泊)

5 日目：駒ノ小屋→小倉山→駒の湯温泉→  
大湯温泉→(バス)→小出駅 →(JR鈍行)→新宿駅

## 2 日目 (5 月 2 日(日))

|                |             |         |
|----------------|-------------|---------|
| 起床             | 03:00       |         |
| C1             |             | 05:10 発 |
| 笠ヶ岳            | 05:40 着     | 05:50 発 |
| 悪沢岳            | 07:10 着/発   |         |
| 至仏山            | 08:10 着     | 09:00 発 |
| 岳ヶ倉山           | 11:50 着/発   |         |
| ススヶ峰           | 13:50 着     | 14:10 発 |
| 景鶴方面分岐         | 14:30 着     | 14:40 発 |
| 幕営地点(C2)       | 15:20 着(幕営) |         |
| (歩行時間：約 8 時間半) |             |         |

前の晩は、かなり疲れていたにも関わらず、寒くて熟睡できなかった。この日は長い行程になるので、日の出前には出発したかったが、準備に手間取り、テン

トの前で日の出を迎え、出発は 5 時を過ぎてしまった。  
雲ひとつない青空である。身体は重い、雪が締ま  
っていて歩きやすい。樹林帯の中を少し進むと、すぐ  
に笠ヶ岳の登り口に到着。荷物を担いで山頂に登り、  
北東の尾根を進むという手もあるのだが、空身で往復  
して、トレースのついている東斜面をトラバースする  
ことにした。

急斜面を 5 分ほど登ると山頂に到着。360 度の大展  
望が待っていた。西の谷川連峰から始まり、巻機山～  
中ノ岳～平ヶ岳と、利根川源流を囲む上越国境の尾根、  
北には至仏山と燧ヶ岳、東は日光白根山から皇海山・  
袈裟丸の尾根、南には武尊岳…。ゆっくりと眺めを楽  
しみたかったが、まだ 30 分しか歩いていないので、  
至仏山でも大展望が期待できることもあり、先を急ぐ  
ことにした。

重い荷物を再び担いで、なだらかな道を進む。笠ヶ  
岳のあたりから急に新しい踏み跡が多くなる。鳩待峠  
から入って笠ヶ岳を往復するのが人気のようだ。向こ  
うからやってくる 2 人とすれ違った。気持ちの良い樹  
林帯の道を進み、悪沢岳を超え、鳩待峠から至仏山に  
登る道に合流すると、さすが連休だけあってたくさん  
の踏み跡。前にも後ろにも人がある。右手に尾瀬ヶ原  
を見下ろすように進み、程なく至仏山山頂に到着。先  
客が何組かいた。至仏山山頂は期待に違わず、大展望  
だった。目標の中ノ岳、越後駒ヶ岳が先ほどよりも近  
づき、大きく見える。これから進む平ヶ岳への稜線も  
すべて見渡すことが出来て、気分も高揚する。素晴ら  
しい眺めを楽しんでいると、どんどん人が登って来る。  
1 時間ほど山頂でゆっくりして、出発。これからは無  
雪期には藪で歩けない道であるが、しっかりトレース  
がついている。

平ヶ岳を正面に見ながら北斜面を下って行くと、と  
ころどころ腿まで潜り、結構疲れる。最低鞍部に近づ  
いたところで、右手に少し離れた所を 1 人登って来る。  
大声であいさつを交わし、情報交換。向こうの人は、  
景鶴山から単独で縦走してきた若い女性だった。

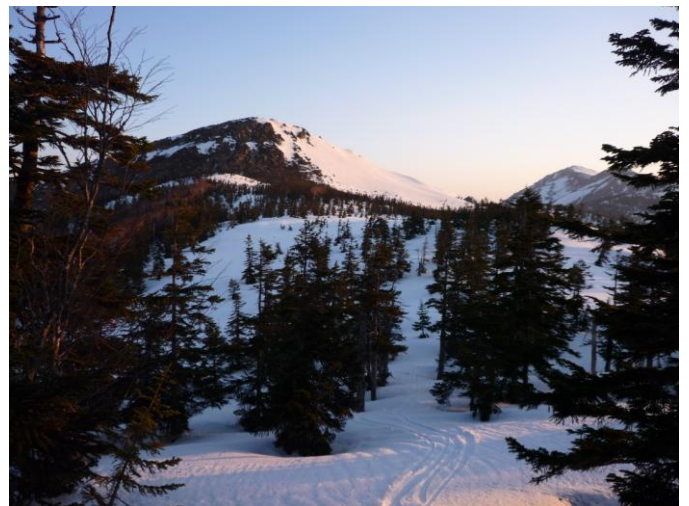
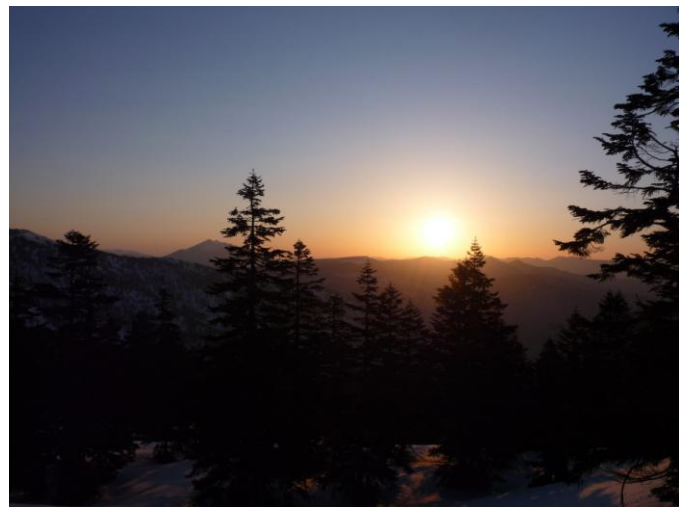
鞍部からは小さなアップダウンを繰り返し、岳ヶ倉  
山(1816m)の急な登りとなる。遠くから見るときつ  
そうに見えたが、見かけほどではなかった。とはいえ、  
気温が上がって雪がすでに腐っていて歩きにくい。な  
だらかなところになる度に、スノーシューに履きかえ  
る。気温も上がり、すでにバテ気味になってきたが、

翌日は厳しいコースが待っているので、できるだけ平ヶ岳に近いところまで進んでおきたかった。ススケ峰へのなだらかな登りで、谷の方へ滑って行くスキーヤーを見かけた。休み休み登り、14時前、ようやく高原のようなススケ峰（1953m）に到着。平ヶ岳から西に延びる稜線が再び姿を現した。バテバテだったが10分ほど休んですぐに出発。

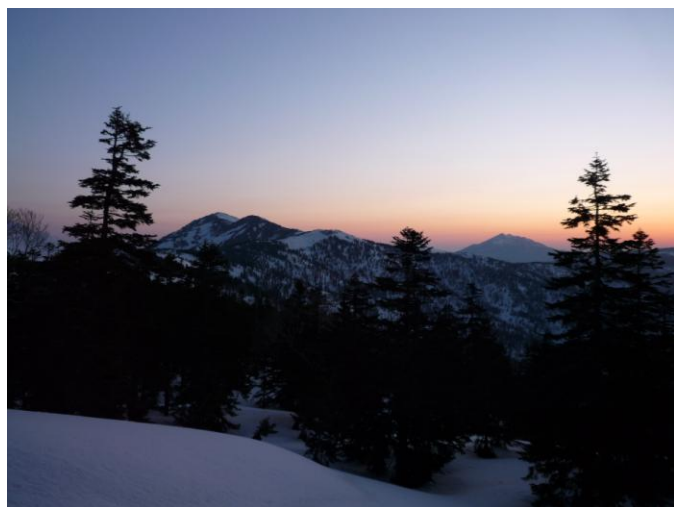
山頂から少し下ると、稜線にテントを張っている3人パーティーがいた。さらに進むと、テントがぼつぼつと、景鶴方面への分岐までに5パーティーのテントがあった。全パーティー、テントをベースに平ヶ岳を往復のようだった。

分岐から真北に延びる平ヶ岳方面への尾根を下って行くと、高齢の男性が一人でゆっくり登ってきた。もう2人と平ヶ岳から剣ヶ倉山、大水上山を越えて巻機山へ縦走する予定だったが、足がつったので引き返し、あとの2人は縦走を続けているということだった。70歳になるというその方は、このあたりをよく歩いているそうで、この先の道の様子についていろいろと教えてくれた。平ヶ岳から先、とくに剣ヶ倉山の雪庇の様子が心配だったが、「慎重に行けば大丈夫でしょう」ということだった。お礼を言って別れ、尾根を下っているとさらに次々と人が登ってくる。この日、ススケ峰から幕営地の間で、30人もの人とすれ違った。ほぼ全員平ヶ岳の往復だった。

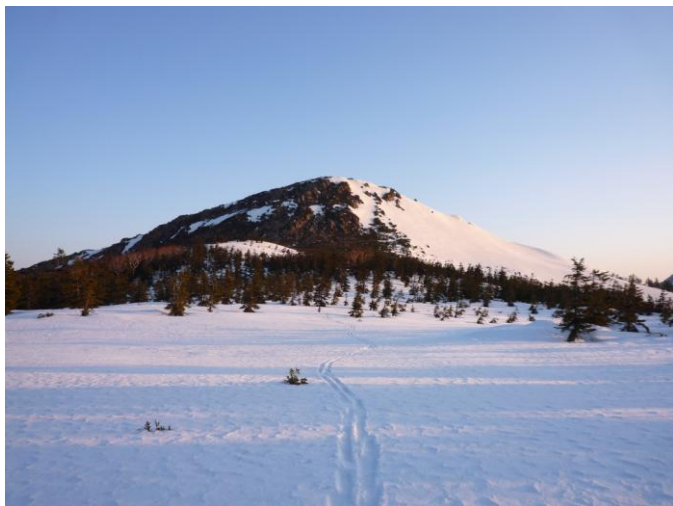
尾根を下りきった白沢山手前のコルが樹林帯の気持ちのいいところだった。完全にバテてしまい、白沢山まで登る元気がなかったので、ここでテントを張った。



笠ヶ岳に向かう。



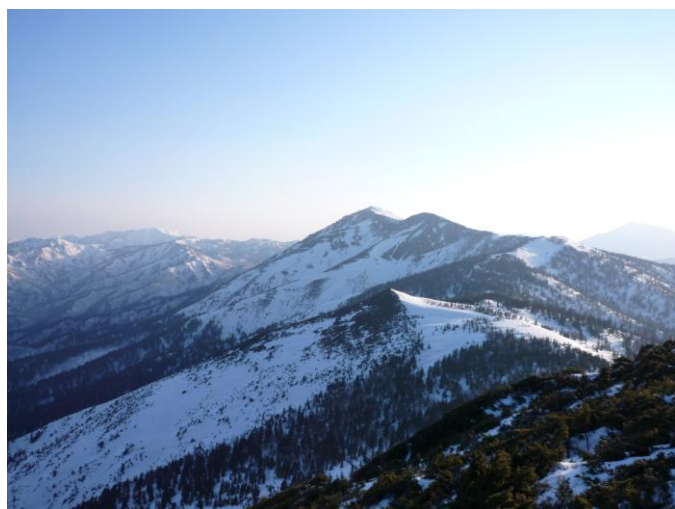
夜明け前の至仏山と燧ヶ岳(右)。



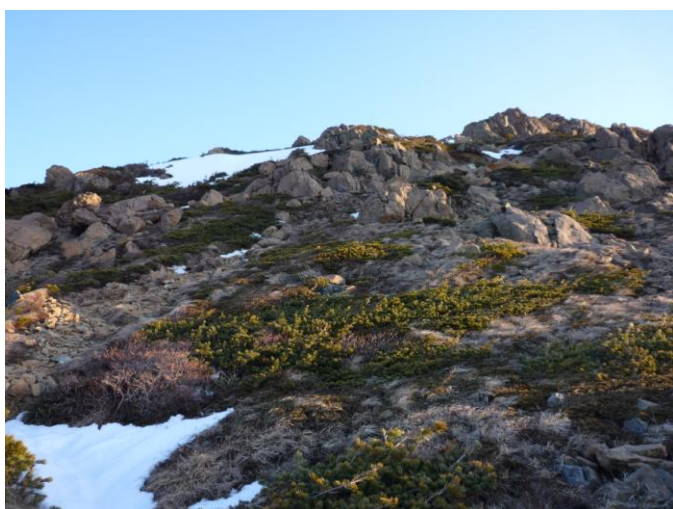
笠ヶ岳(2058m)



笠ヶ岳山頂は 360 度の大展望。



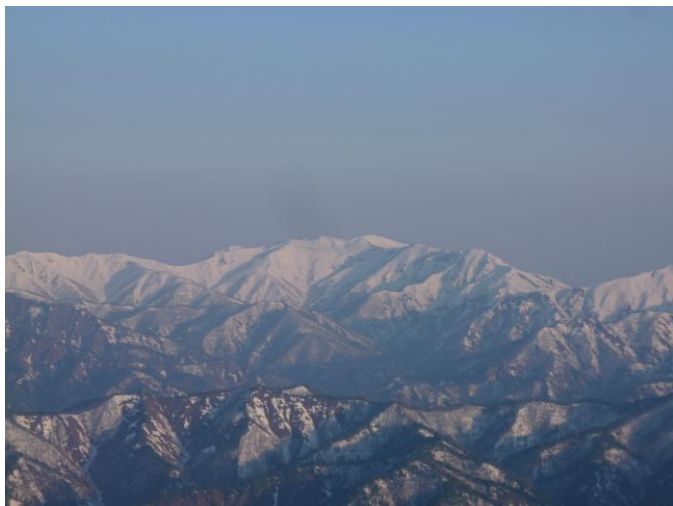
至仏山(2223m)。左奥は平ヶ岳(2140m)。



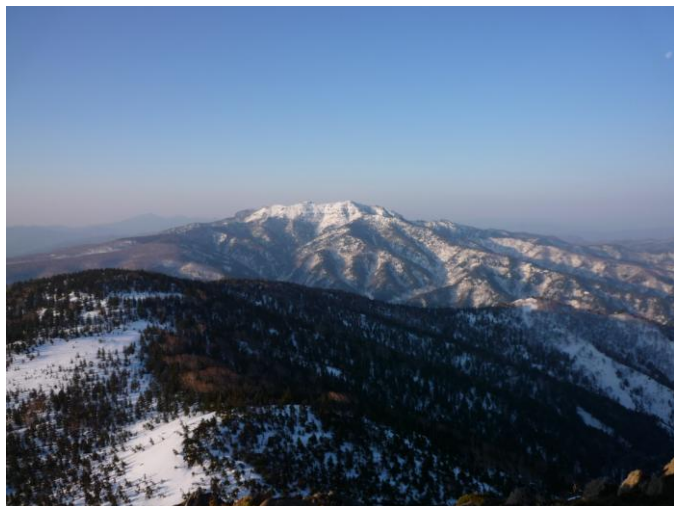
笠ヶ岳の登り。南面なので雪がほとんど溶けている。



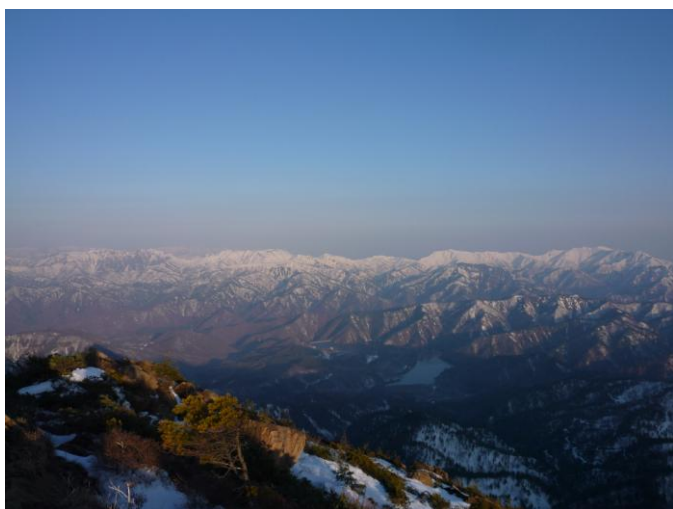
中ノ岳(左の高い方)と越後駒ヶ岳が遠い。



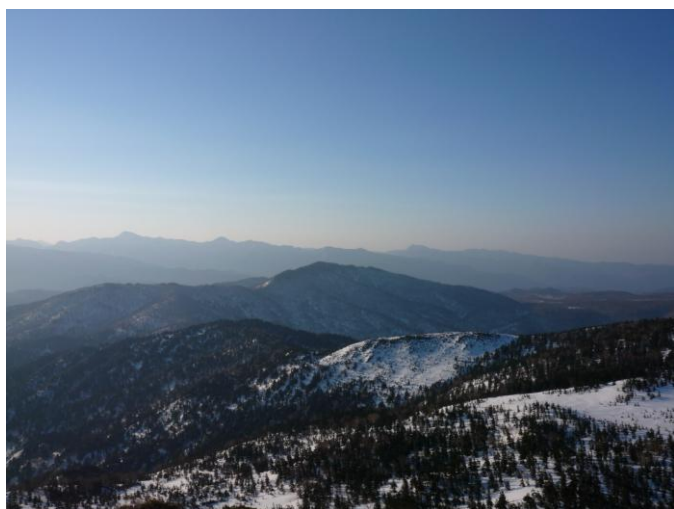
巻機山。



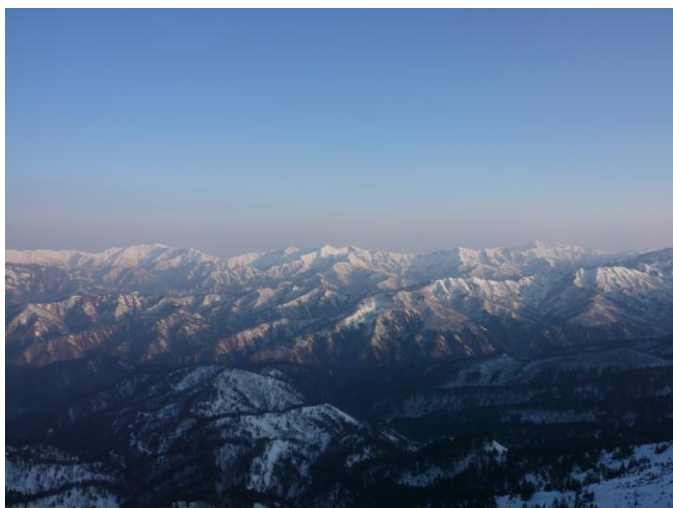
武尊岳(2158m)



谷川連峰(左端の黒っぼい山)～巻機山。



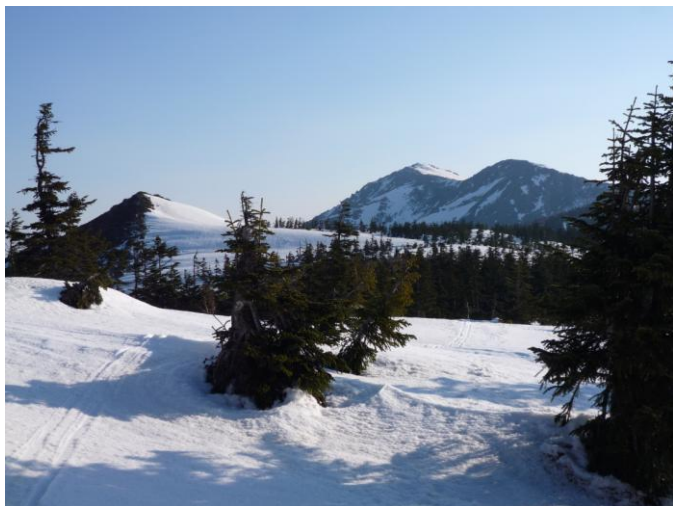
日光白根山(左の一番高いピーク)～皇海山



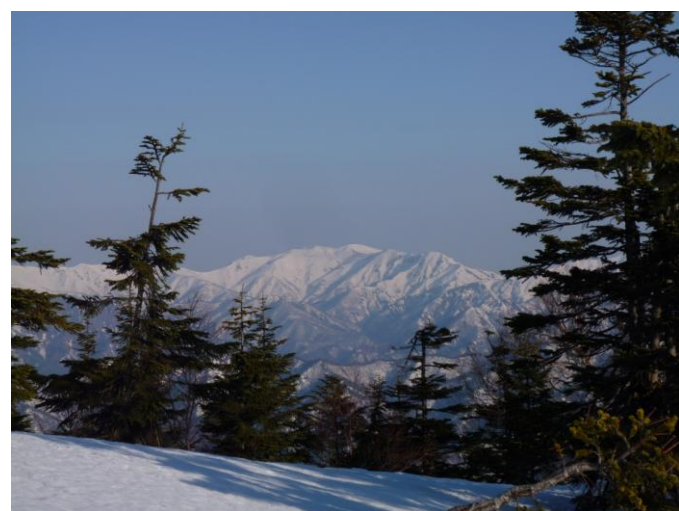
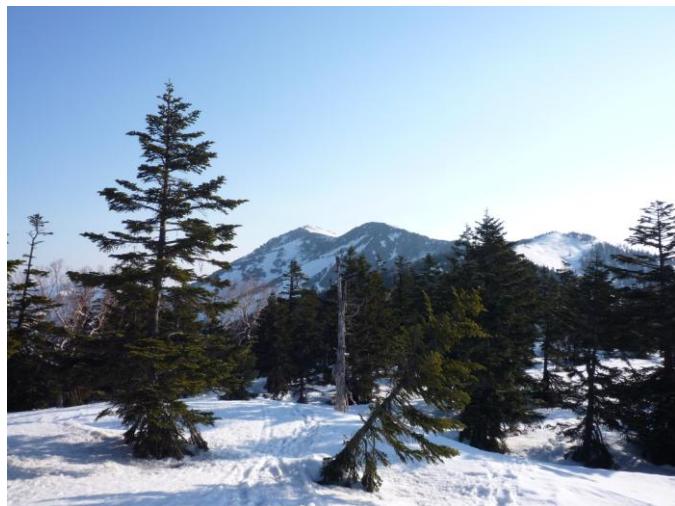
巻機山～中ノ岳・越後駒ヶ岳



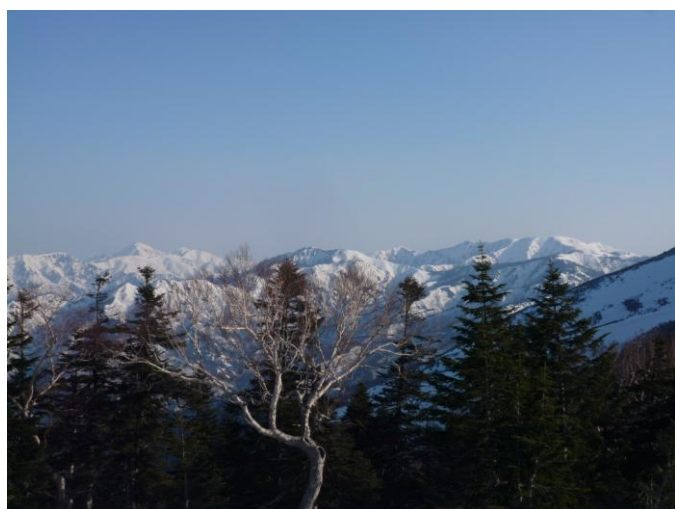
分岐に戻り、スキースのトレースを辿る。



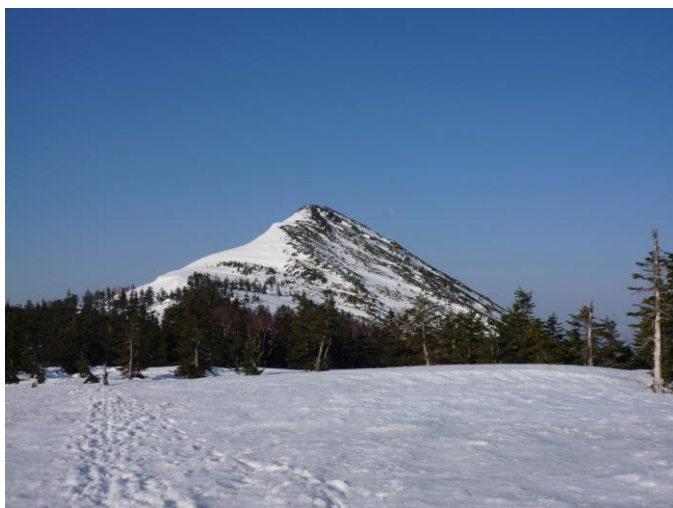
至仏山を目指す。左のピークは小笠。



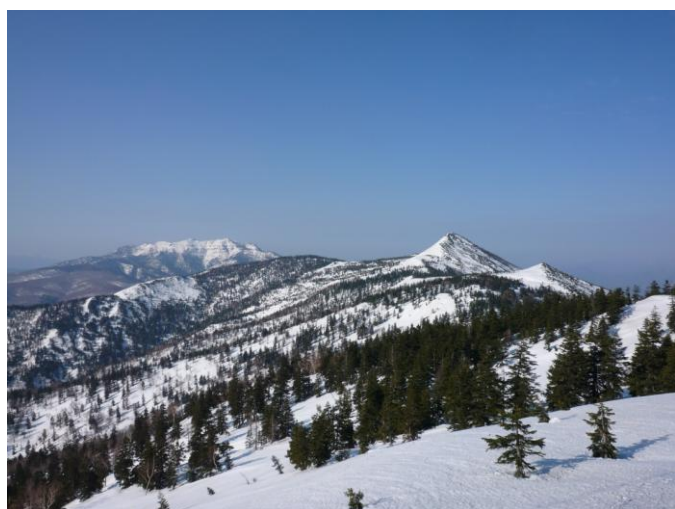
巻機山。



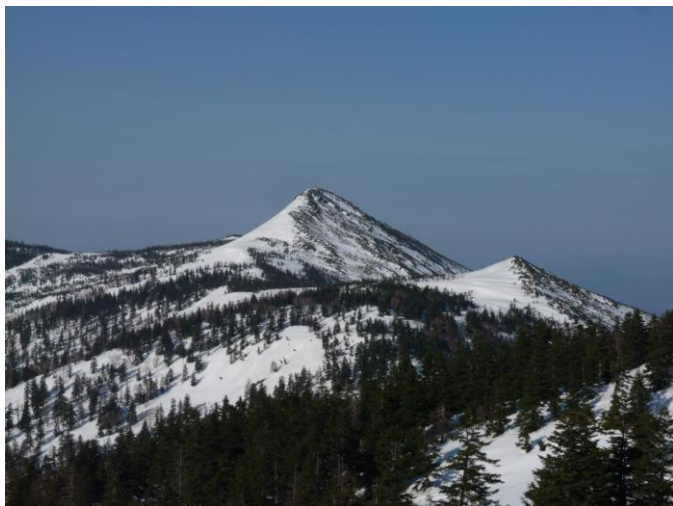
翌日歩く平ヶ岳～大水上山の稜線。左は中ノ岳。



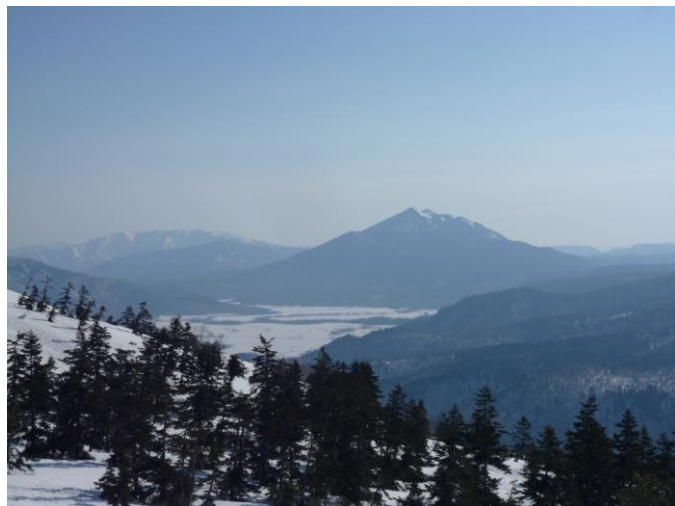
笠ヶ岳を振り返る。



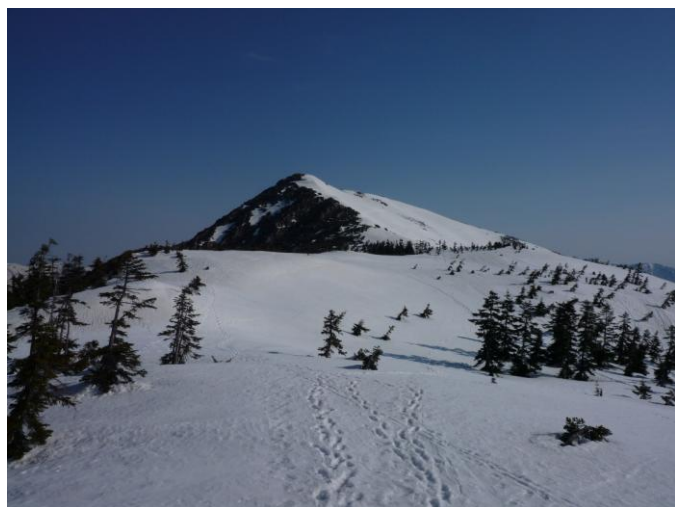
武尊岳と笠ヶ岳。



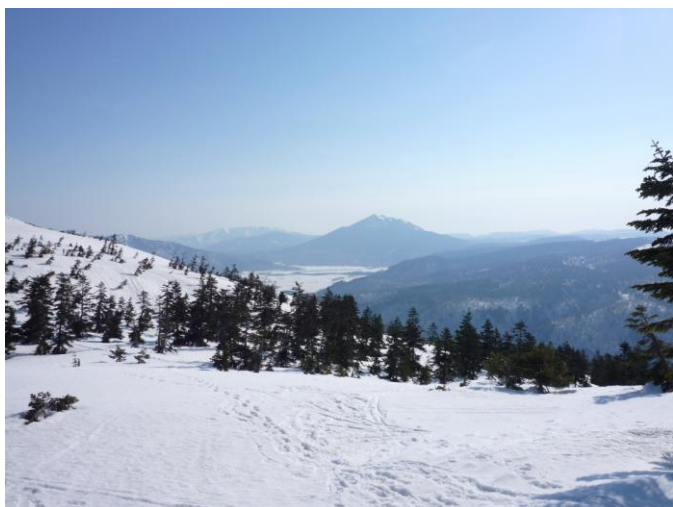
笠ヶ岳は美しい山容をしている。



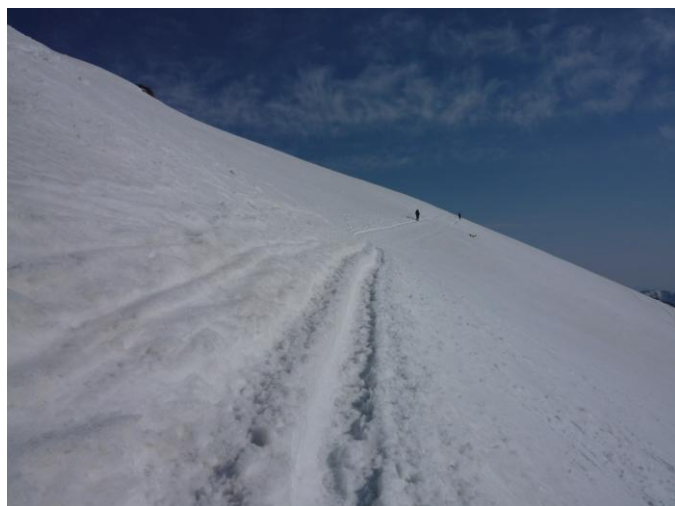
悪沢岳のなだらかな山頂を過ぎたところ。右は燧ヶ岳、中央は会津駒ヶ岳。



このあたりで鳩待峠からの道と合流。正面は小至仏山。至仏山は隠れて見えない。



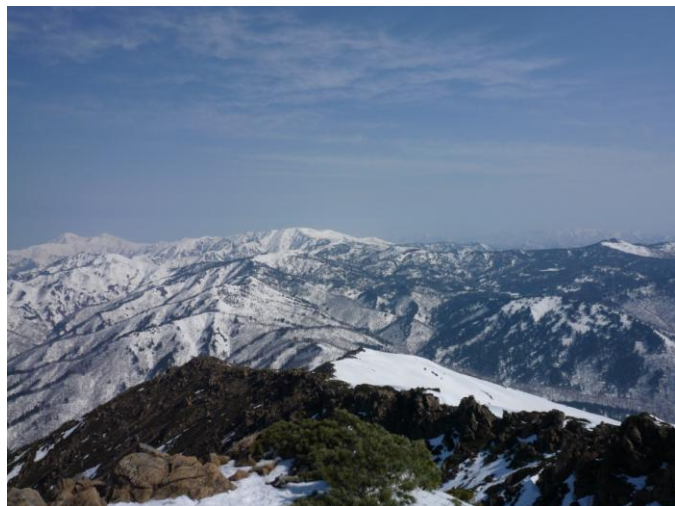
尾瀬ヶ原が見えるようになってきた。



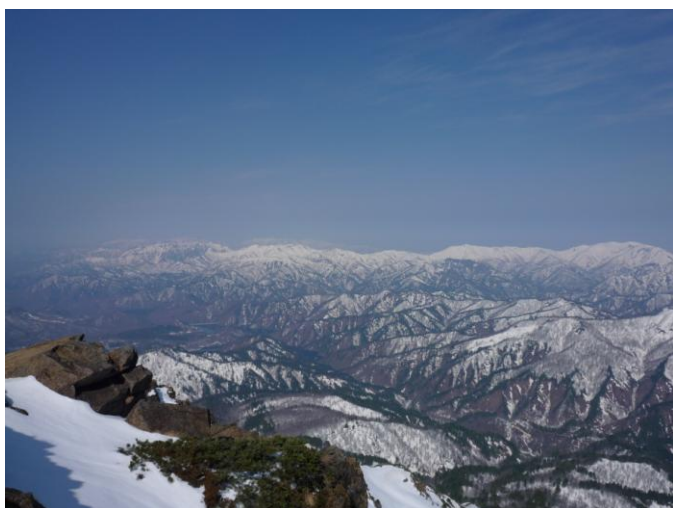
山頂に向かうトレース。前にも後ろにも人がいる。



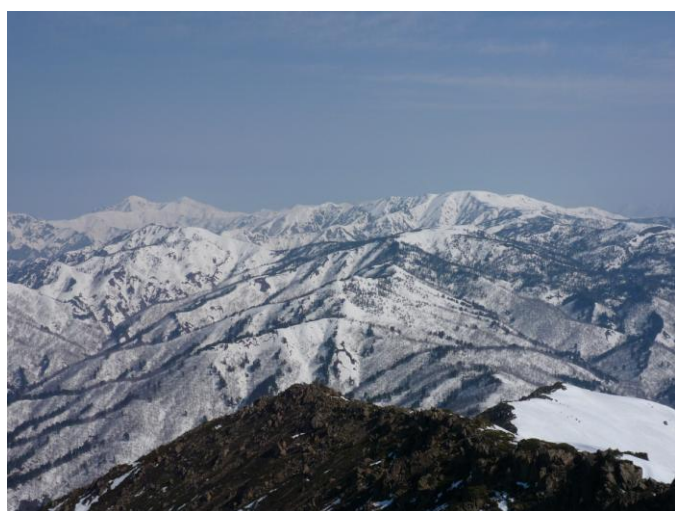
午前 8 時、至仏山山頂に到着。すでに先客がいる。山頂は期待通りの大展望。1 時間近く眺めを楽しんだ。



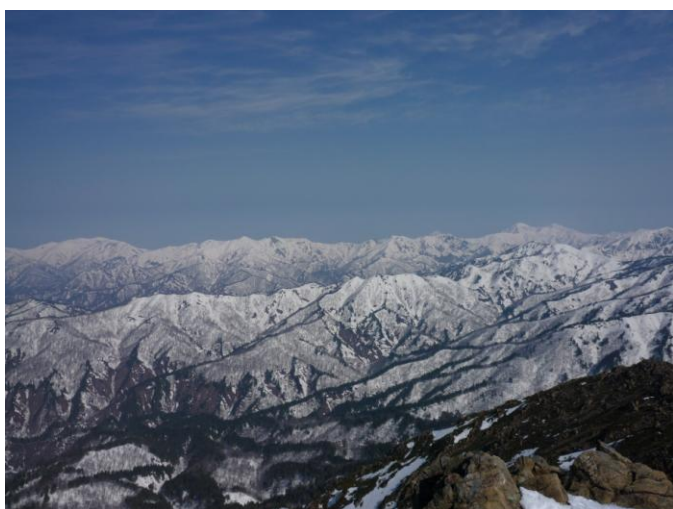
(上の続き) 中ノ岳～平ヶ岳～景鶴山(右端)



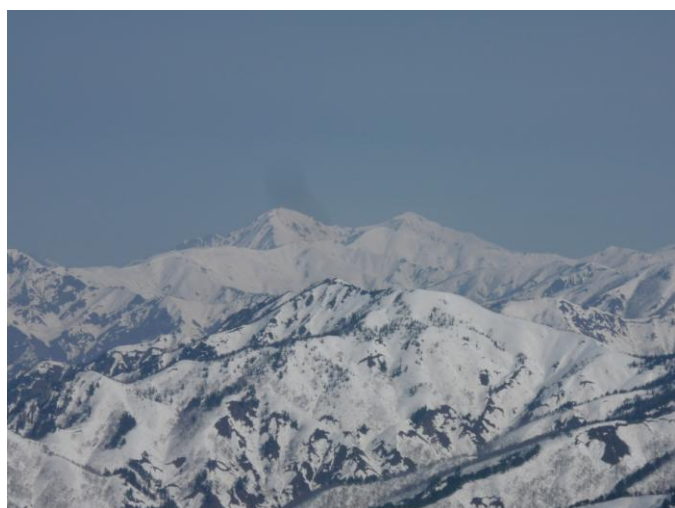
谷川岳～巻機山



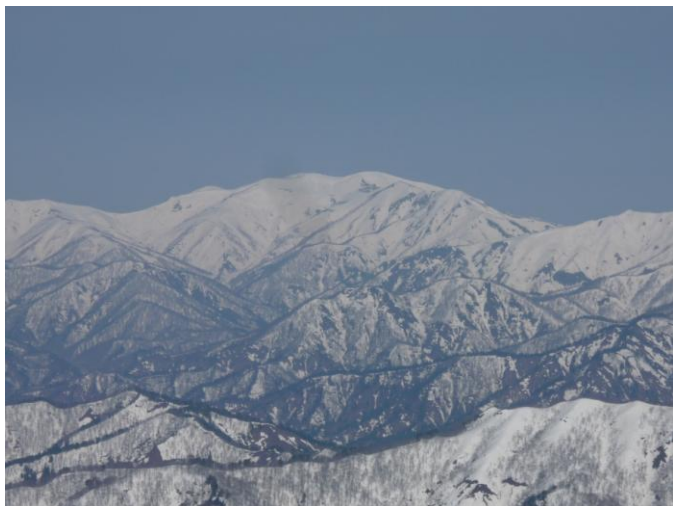
上の写真のアップ



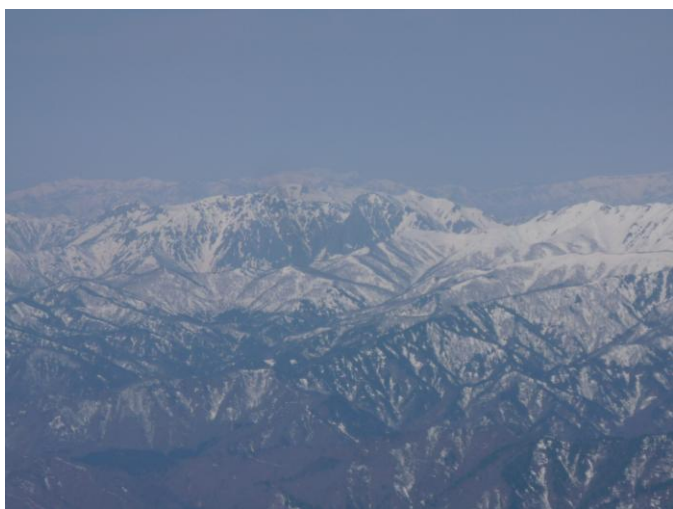
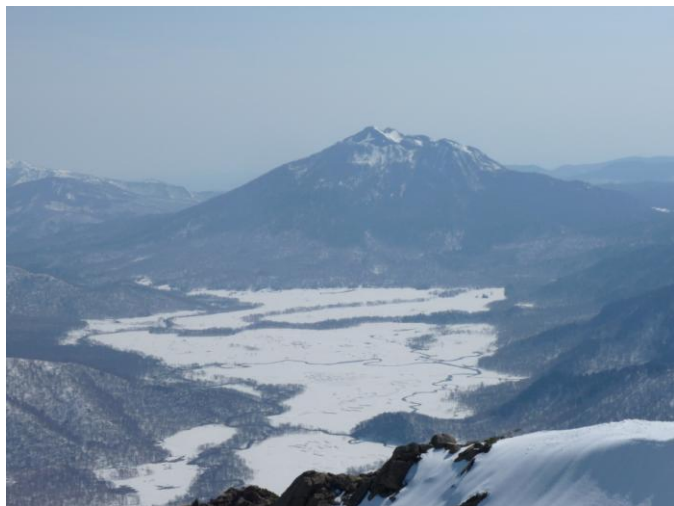
(上の続き) 巻機山～中ノ岳・越後駒ヶ岳



中ノ岳・越後駒ヶ岳遠望。



巻機山遠望。



谷川岳遠望。



休んでいるとどんどん人が登って来る。1 時間ほど休んでから出発。



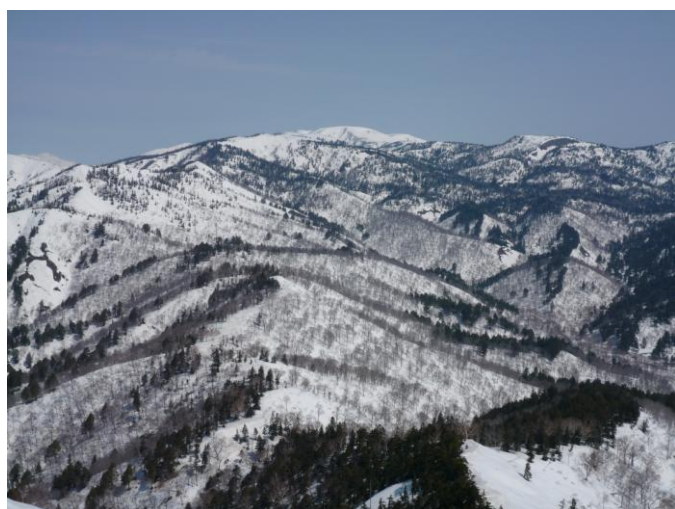
燧ヶ岳と尾瀬ヶ原、会津駒ヶ岳、景鶴山。



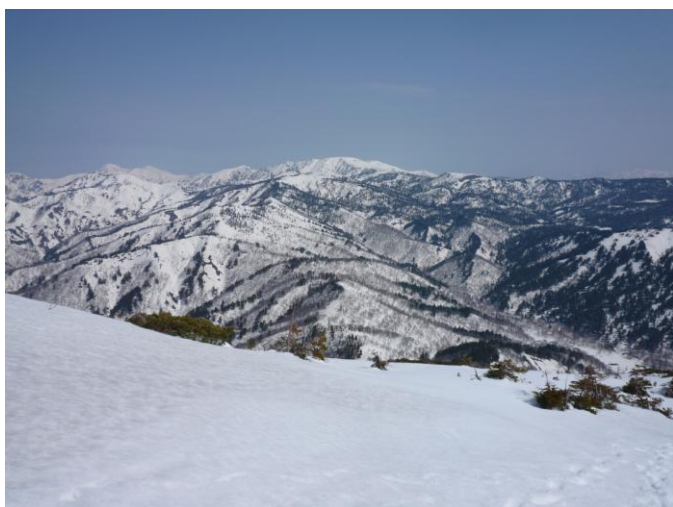
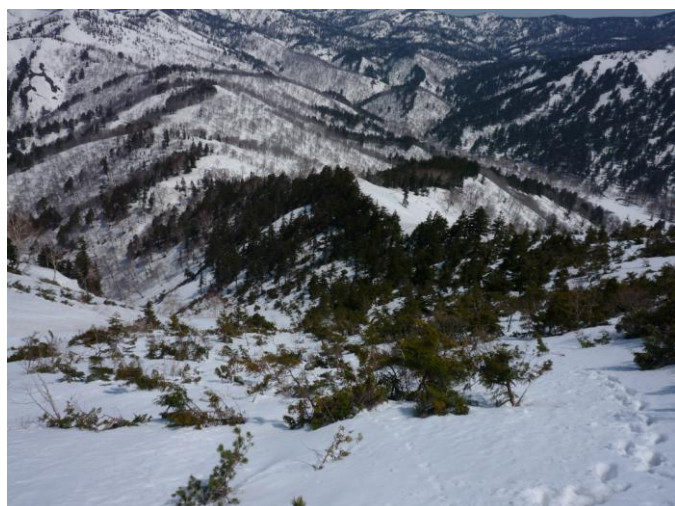
至仏山から北の尾根を下る。夏道はないが、トレースがしっかりついている。



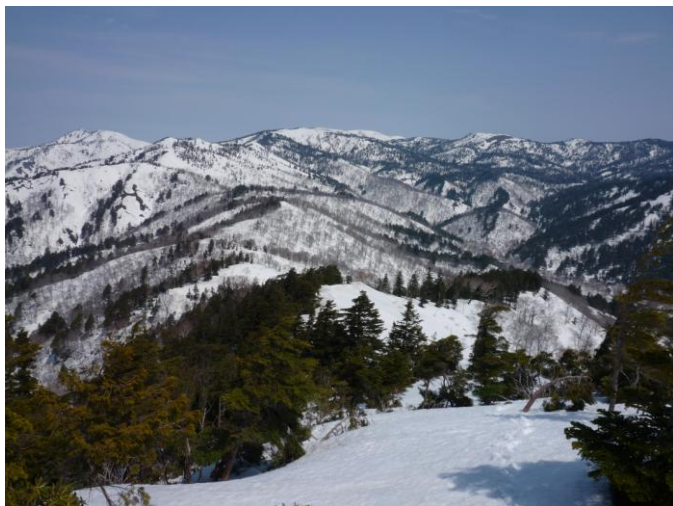
尾瀬ヶ原の左は溶岩台地(一番高い地点が景鶴山 2004m)で、湿原が点在するが、無雪期は保護のため入ることはできない。



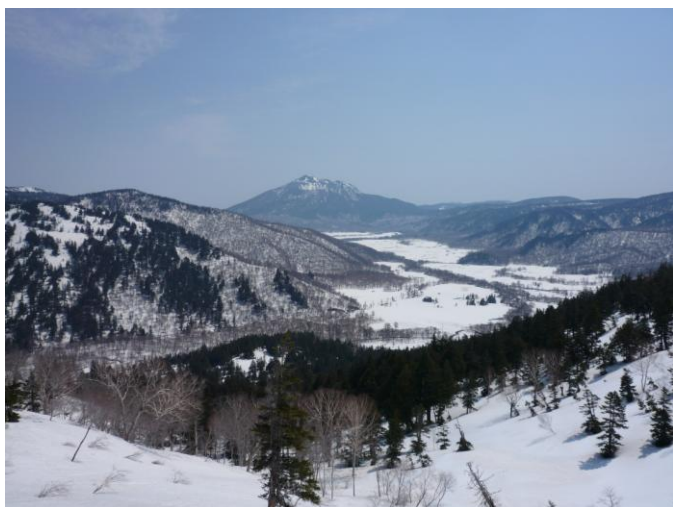
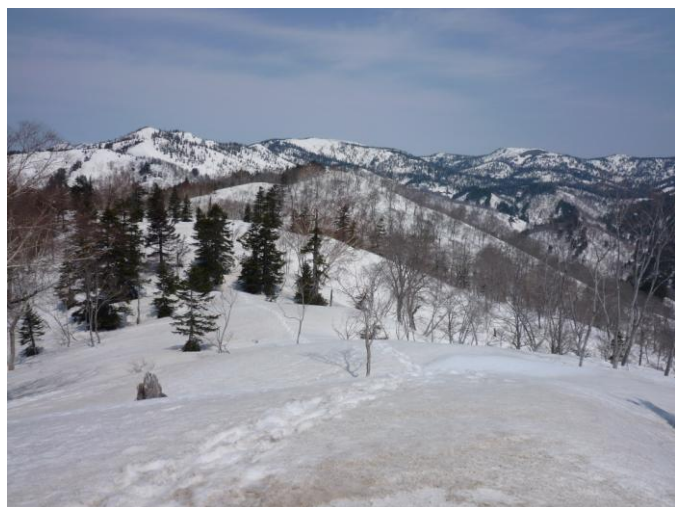
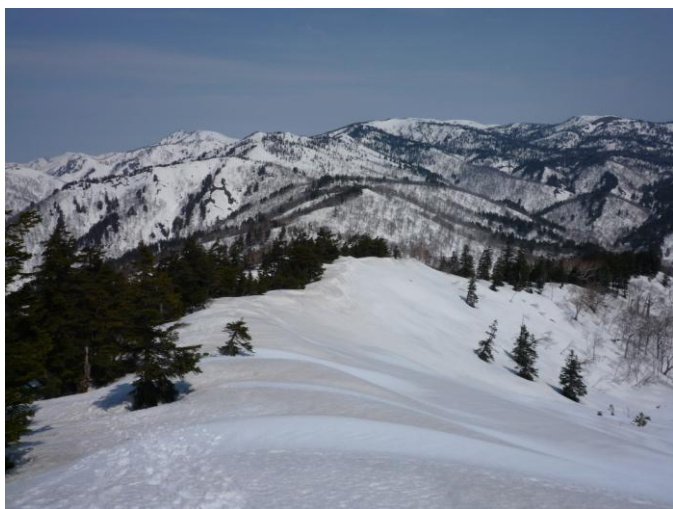
雪の尾瀬ヶ原。



このような景色をずっと眺めながら、平ヶ岳に続く尾根をたどる。



この先がこの稜線の最低鞍部(1600m ほど)。一気に700m 下ったことになる。逆コースはこの登りが大変だろう。

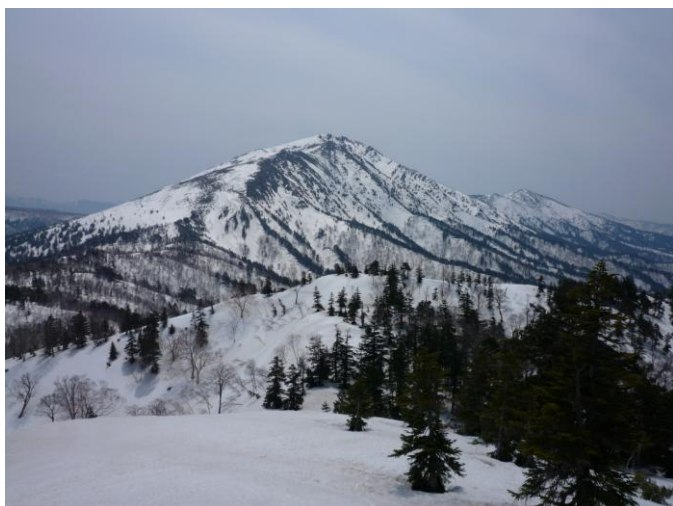




岳ヶ倉山の山頂あたりから。左のなだらかな山がススケ峰、中央右は大白沢山。



岳ヶ倉山(1816m)。登りはきつそうに見えたが、大したことはなかった。

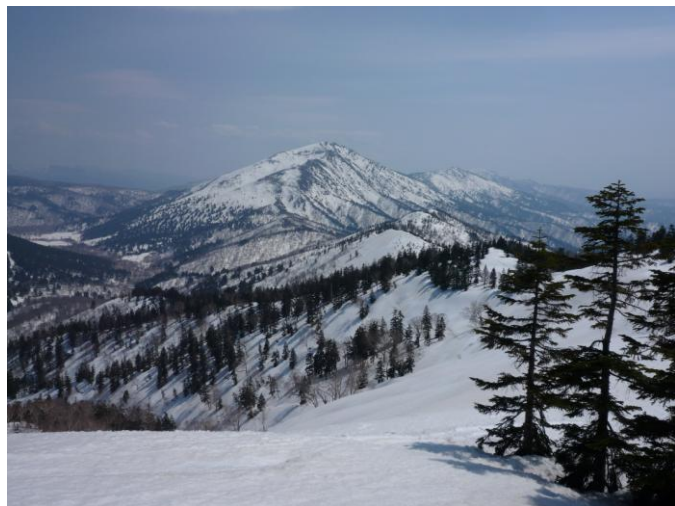


至仏山を振り返る。

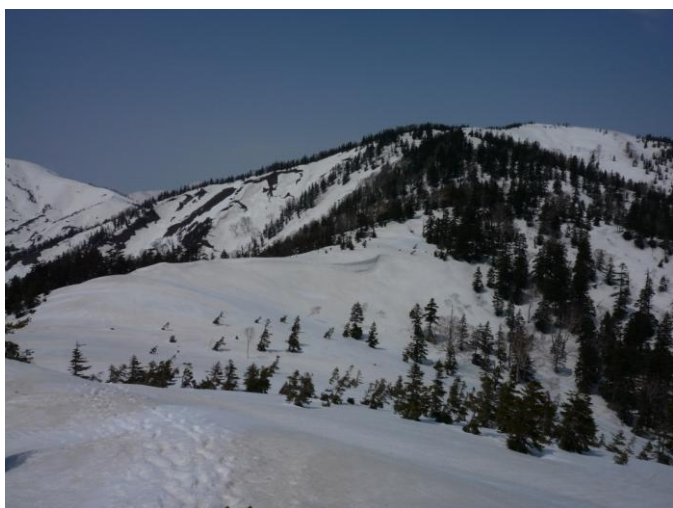
ススケ峰までなだらかな登りが続く。



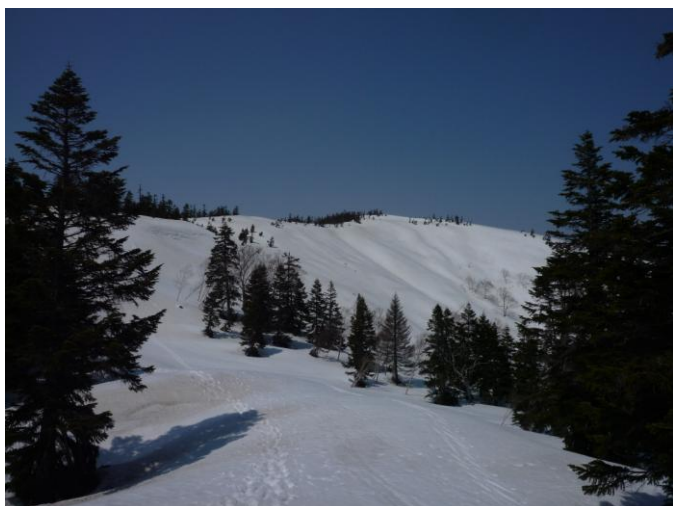
稜線から外れた赤倉岳(1959m)という山だが、なかなか立派な山で目を引く。



振り返ると至仏山が遠くなっていた。



ススケ峰の山頂。



平ヶ岳へと続く尾根はなだらかで、平和な感じがする。



平ヶ岳



右から大白沢山、景鶴山、燧ヶ岳。



左端の小ピークが分岐点。右へ行くと大白沢山(中央) 経由で景鶴山へ、左へ行くと平ヶ岳へ。

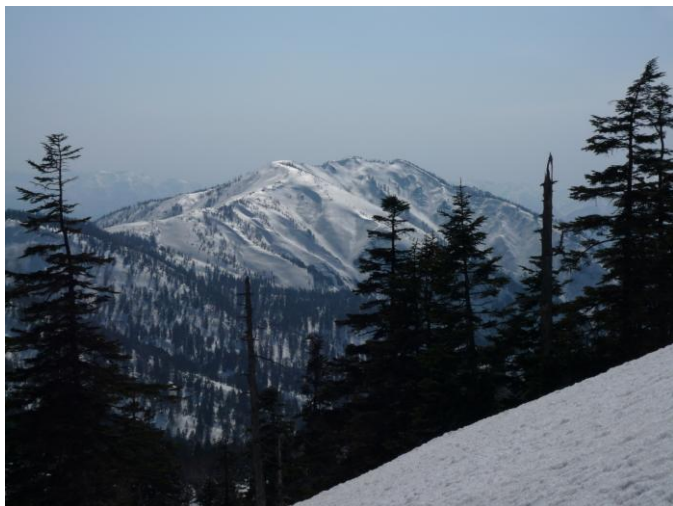


会津駒ヶ岳～会津朝日岳の山々。

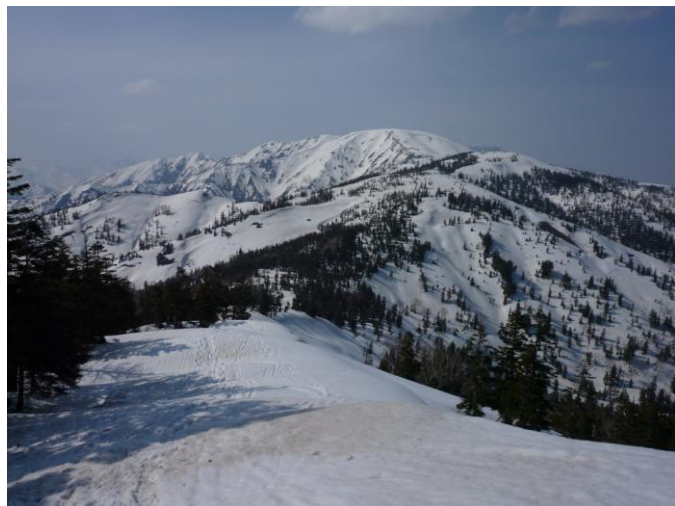


急に足跡が多くなる。多くの人は、ここから直接沢沿いに山の鼻まで下る。





赤倉岳は立派。



白沢山まで行きたかったが、バテてしまったのでこの尾根を下りきったところで幕営した。

